

三島市民3人

# 市職員2人を刑事告発

## 補助金「虚偽の稟議書」で不正問題

人は、当時の担当部長と、協同にも「告発状を見ていないのでコメントできない」地域活性化戦略監。二人はと本紙の取材に答えた。

補助金交付を巡っては、渡辺義行産業文化部長が十一月二十日の市議会一般質問で、「審査会はしていないが、審査員がいた会議で話し合い、了承を得たので、審査会がなされたのみなしている」と、審査会を開かずに交付したことを認める答弁をした。

三島市が虚偽の稟議書を作り、市が事務局を務める「三島市地域ブランド推進協議会」に補助金を不正に交付させたとして、市内の主婦(五〇)ら市民三人が五日、虚偽有印公文書作成容疑で市職員二人を三島署に刑事告発した。

告発状によると、市職員二人は二〇一六年九月に補助金交付に必要な手続きとなる審査会を実際は開いていないのに、「審査会を実施し、審査員了承済み」と記した虚偽の稟議書を作り、協議会に補助金二百万円を交付させたとされる。

市民の一人は「市は不正を認めているのに、自浄作用を働かせようとしないので、警察に市の姿勢を正してもらいたい」と語った。

刑事告発された市職員二